

台灣高中職日文科(組)日語教師之教學自我效能及其教學行為

溫雅琄

盧錦姬

王福順

靜宜大學日文系助理教授

靜宜大學日文系教授

修平科技大學應用日語系副教授

摘要

教師的教學自我效能經許多研究證實與學生的學習成就及教師的教學行為息息相關，故本研究藉由探討台灣高中職日語科(組)日語教師的教學自我效能及教學行為，希冀了解兩者的現況、關聯性及與教師個人屬性的關係。研究方法為問卷調查分析，共有29校132位高中職日語科(組)專兼任日語教師回答此問卷，問卷內容包括個人屬性、教學自我效能及教學行為兩量表。統計分析結果如下：

1. 因素分析：教學自我效能量表抽取出「教育觀」「教學效能感」「教學滿足感」「環境資源完善度」「班級經營效能感」5因素；教學行為量表也抽取出「教學策略」「學習評量及學生行為問題對應」「課前準備」「教學法及媒體運用」「教學調整」5因素。
2. 個人屬性之差異：除了「教育觀」未達顯著外，其它不論是教學自我效能或教學行為，所有因素皆呈現出本國籍教師顯著地高於日籍教師，社會文化專攻教師顯著地高於他群(非語文或政經商專攻)教師的結果。另外，性別及日語教學年資兩屬性在教學自我效能或教學行為的所有因素上，均無顯著差異。
3. 教學自我效能與教學行為之關係：教學自我效能的5因素與教學行為的5因素之間彼此皆有顯著的正相關。但在預測整體教學行為上，只有「教學效能感」「教學滿足感」「班級經營效能感」3因素具有有效的預測能力，其中又以「教學效能感」的預測能力最高。

關鍵字：教學自我效能，教學行為，高中職日文科(組)日語教師，自我效能理論

台湾における日本語教師の教師効力感と教授行為 — 高等学校の日本語学科の場合 —

溫雅琇

盧錦姬

王福順

靜宜大学日本語学科助理教授 靜宜大学日本語学科教授 修平科技大学応用日本語学科副教授

要旨

本研究は日本語教師の教師効力感及び教授行為を調査し、両者の現状、関連性及び教師属性との関係を明らかにすることを目的とした。調査対象は台湾における高等学校 29 校の日本語学科の日本語教師 132 名であった。分析の結果は以下の通りである。

1. 因子分析について：教師効力感尺度については「教育観」、「教授効力感」、「教授満足感」、「環境・リソースの整備度」、「クラス運営効力感」の 5 因子が抽出された。教授行為尺度については「教授方略行動」、「学習評価と学生問題対応行動」、「授業準備行動」、「教授法・メディア挑戦行動」、「授業調整行動」の 5 因子が抽出された。2. 教師属性の差異について：「教育観」を除けば、教師効力感尺度及び教授行為尺度におけるほかのすべての因子において台湾籍教師のほうが日本籍教師より、社会文化専攻教師のほうが他群教師(専攻が語学、文学、政治経済ビジネス以外の教師)より有意に高かった。また、性別と教職経験年数についてはどの因子においても有意な差が認められなかった。3. 教師効力感と教授行為の関連性について：教師効力感尺度の各因子と教授行為尺度の各因子の間にはすべて正の有意な相関性が認められた。教授行為の予測に有効的な変数は「教授効力感」と「教授満足感」、「クラス運営効力感」の 3 つのみであり、特に「教授効力感」が一番予測力が高かったことが分る。

キーワード：教師効力感、教授行為、高等学校の日本語教師、自己効力感